

# すがもらいぶらり

2021年11月1日巣鴨図書館発行



ここはどこ？  
「じぞうさんぽ」  
に正解が...

ここはどこ？  
「食いしん坊司書の部屋」  
に正解が...

「江戸川乱歩」と豊島区の縁は昭和9年から始まります。昭和40年に亡くなるまで、池袋西口、立教大学の近くに住んでいました。乱歩の家には、書斎や書庫として利用していた土蔵があり、乱歩はこの土蔵が気に入って引っ越してきたそうです。乱歩の邸宅や土蔵は、現在立教大学に譲渡され「旧江戸川乱歩邸」として一般に公開され、豊島区の有形文化財にも指定されています。

そして今年、乱歩と豊島区の繋がりを一層深める連携事業が決定しました。ミステリー界の登竜門といわれる「江戸川乱歩賞」とのコラボです。

「江戸川乱歩賞」は、乱歩の寄付金により探偵小説の奨励のため設けられた新人賞です。西村京太郎や東野圭吾など歴代の受賞者は旧江戸川乱歩邸に受賞報告に訪れているそうです。

今年第67回の受賞作品・受賞者「北緯43度のコールドケース・伏尾美紀」「老虎残夢・桃野雑派」の「乱歩賞授賞式」を、「としま文化の日」である11月1日に東京建物BrilliaHall（豊島区立芸術文化劇場）で一般公開にて実施される予定です。また受賞作品のブルー版が巣鴨図書館で閲覧できます。

旧乱歩邸は、あいにくコロナの影響でこの原稿を書いている段階では休館中ですが、開いたら是非こちらにも足を運んでみてください。

(館長)



じぞうくん

「ブルー版」(発売前の本)初めて見ました。  
巣鴨図書館で見られますよ！

イラスト作 S

## 11月の行事

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	休館		ガリ版印刷			
7	8	9	10	11	12	13
新刊お話し会						
14	15	16	17	18	19	20
新刊お話し会						
21	22	23	24	25	26	27
新刊お話し会		SDGs お話し会です			休館	
28	29	30				
新刊お話し会						

緊急事態宣言が解除されましたので、幼児・小学生向けおはなし会を再開します。

21日は、「SDGs お話し会」です。  
どうぞお楽しみに！

当面は、事前申込制となりますので、ご希望の方は、電話かカウンターにて、お申し込みください。

また11月3日、文化の日、図書館前庭に、ZINEトラックが来ます！  
ZINEを作りに来ませんか？

### 編集後記

今月号のテーマは、  
「江戸川乱歩」  
ファンの方はもちろん、そうでない方にも、楽しんでいただけたら幸いです。  
(M)

## 江戸川乱歩賞



江戸川乱歩賞は、昭和29年江戸川乱歩の還暦祝賀会の際、乱歩が日本探偵作家クラブに寄付した100万円を基金として、探偵小説奨励のための賞として設立されました。正賞としてシャーロックホームズのブロンズ像を贈呈する事も乱歩自身のアイデアでした。(第48回まではホームズ像でしたが、第49回からは江戸川乱歩のブロンズ像になりました)

当初は、対象が「その年の探偵小説における創作、翻訳、評論、映画、舞台等」と幅広く、第1回は「探偵小説辞典」の中島河太郎、第2回は「ハヤカワポケットミステリ」を出版した早川書房が受賞しました。しかし、これでは最初の主旨と違ってしまおうという事になり、第3回目からは「既成作家、新人を問わず、書き下ろし未発表長編小説」に絞りました。また、後援する出版社も乱歩が編集長をしていた宝石社のみではなく、大手出版社の講談社にも加わってもらい、受賞作は講談社が出版することになりました。更に第38回からは映像化権取得を条件に、フジテレビジョンも後援することになり、副賞1000万円と本の出版、更に映像化もされ、ますます推理作家の憧れの賞になりました。(現在は副賞500万円)

この賞を受賞した作家のほとんどがその後活躍し、森村誠一、東野圭吾、堂場瞬一、桐野夏生、池井戸潤等、ベストセラーを数多く書いています。  
その意味でも、江戸川乱歩賞はミステリー作家にとって特別な文学賞なのです。

巣鴨図書館では、『大乱歩 作家として 編集者として』と題し、図書館2階に数十冊程度の特集コーナーを設け、展示貸し出しを行います。乱歩は作家のみならず、新人を発掘する編集者としても、優れた目を持っていました。乱歩自身の作品と、彼が発掘した名作家たちの作品、更には乱歩の水脈に連なる乱歩賞受賞作家の作品とともに展示し、『大乱歩』のほんの一端でも感じていただけたらと思います。

### 特集展示開催概要

期間：10月23日(土)～令和3年11月25日(木)  
時間：平日 9:00～19:00  
土日祝 9:00～18:00  
場所：巣鴨図書館2階 特集コーナー

※コーナーの資料はすべて貸出できます。

## 食いしん坊司書の部屋

乱歩先生ゆかりのお店  
行ってきました!!!



今月は、食いしん坊の名にふさわしく？初の食レポです。まず、初めに訪れたのは、乱歩先生始め、多くの作家に愛された**神保町の老舗てんぷら屋さん、「はちまき」**です。

いただいたのは、乱歩先生も好まれたという「穴子海老天丼」。目の前で揚げてくれるてんぷらは、衣さっくり、絶品たれは、必要最小限。ネタのおいしさ、お米のおいしさを引き立ててくれます。寄る年波？で、揚げ物が得意でなくなってきている私のお腹にも優しく、心もほっこり幸せな気分にさせていただきました。

感謝を込めて「ごちそうさま」です♡

そして、次の目的地は、**池袋三原堂**。ここでは、乱歩先生が最も好まれたという「薯蕷饅頭」をいただくべきところ。が、あいにくこしあん苦手…ということで、乱歩先生の邸宅に今も残る土蔵(豊島区指定有形文化財)にちなんで作られたという「池袋乱歩の蔵」をいただきました。杏・チーズクリーム、どちらも捨てがたしの味でした(\*^-^\*)

### 【お店情報】

「はちまき」千代田区神田神保町1-19  
TEL: 03 (3291) 6222  
「池袋三原堂」豊島区西池袋1-20-4  
TEL: 03 (3971) 2070



### おすすめ本

『作家の口福 おかわり』 浅井リョウ/他著  
朝日新聞出版 (596.0 サ)

『東京おいしいもの文学散歩 作家たちの愛した味』 婦人画報社  
(池袋図書館所蔵)

『文人悪食』  
嵐山光三郎/著 マガジンハウス  
(目白図書館所蔵)

## じぞうくんのそばくな日常



初めまして、ぼくはじぞう。  
ぼくとかっばくんの日常をここで紹介していくよ。



じぞうくんのところにかっばくんが来ましたよ。

かっば こんにちは！あれ、じぞうくん何を食べてるの？

じぞう 落雁。いつも常備しているんです。

かっば ちょうだい！

じぞう もちろん。ただしこのコーナーが終わったら、ね。

言いながら、落雁をしまい始めたじぞうくん。

かっば あ、けち！待てないから取っちゃおうっと。

じぞう こら！なんて乱暴な。「あ、けち」、「らんぼう」……アケチ、ランポー。今日は江戸川乱歩の明智小五郎についてお話ししようかな。

かっば このつなぎ方、怒られない？

じぞう 大丈夫。明智小五郎は、江戸川乱歩が書いた『D坂の殺人事件』で初登場した、名探偵です。当初は趣味で犯罪心理学を研究している高等遊民でしたが、事件を解決していくうちに民間探偵となりました。ちなみに明智には文代という伴侶がいますよ。

かっば 超有名な孫もいるよね！

じぞう それは金田一かな。ちなみに金田一耕助は、横溝正史が書いた小説に出てくる名探偵です。初心者のかっばくんにおすすめの乱歩作品は、「少年探偵団シリーズ」かな。小中学生で構成された探偵団が活躍するお話だから親近感がわくんじゃないかな。

かっば うん！読んでみるよ。

じぞう 私は、江戸川乱歩の小説から、まとわりつくような寝苦しい熱帯夜を感じるんだ。だから涼しくなった今、オススメです。

### じぞうくんが参考にした本はこちら

『江戸川乱歩語辞典』  
奈落一騎/著 荒俣宏/監修  
誠文堂新光社 (910.2 工)  
巣鴨・中央・池袋にあります。  
※中央所蔵は館内閲覧のみ。

## じぞうさんぽ

### ＜D坂で冷やしコーヒー啜ってみた＞

今号は江戸川乱歩賞にちなみ、出張編です。目的地は、名探偵明智小五郎デビューの地、『D坂』。小説の中の架空の場所であるD坂ですが、実は、豊島区からはとても簡単に行けるのです。都バスの池袋駅東口停留所から、浅草寿町行(草63)のバスに乗車→約30分バスに揺られる→到着。バス停の名は、『団子坂下』。D坂とは、文京区にある団子坂のことなのだそうす。

さて今回、私がバスを降りたのは、その一つ前の千駄木一丁目。実はここに、江戸川乱歩の旧居跡があります。二人の弟と営んでいた古書店『三人書房』(大正8年2月~9年10月)の跡地。現在は駐車場で、特に表示も無し。さっと眺めて、団子坂上の交差点へ。さほど長い坂ではありませんが、道が中ほどで「く」の字に曲がっており、終点は見えません。それではいざ、D坂へ！……とその前に、交差点を左に入ってすぐの文京区立本郷図書館に寄り道です。平成18年に移転するまで、『鷗外記念本郷図書館』と呼ばれていたここは、旧名のとおり、森鷗外関係を中心に近代文学の資料が充実しています。館謹製の『谷根千ゆかりの文人まっぴ』には、江戸川乱歩もしっかり紹介されていました。

乱歩の描くD坂は、かなりゴミゴミして下町の商店街風ですが、現在の団子坂は、マンションや区の施設、飲食店や商店が立ち並ぶバス通りです。『団子坂下』のバス停は千駄木の駅前なので、進むに従ってお店が増え、賑やかになっていきます(喫茶店やお蕎麦屋さんはありましたが、古本屋さんは見当たらず。残念)。ゆっくり歩いても5分とかからないので、折り返して坂を上り、団子坂上にある『文京区立森鷗外記念館』へ。1時間ほど見学した後、館内のカフェでアイスコーヒーを啜りながら、『D坂の殺人事件』の語り手『私』の気分をちょっとだけ味わってみたのでした(窓から見えていたのは、怪しい古本屋ではなく、鷗外さん家のお庭でしたが……)。

(A)

ともぼん

旅のお供に  
ふさわしい図書館  
蔵書をご紹介します

お供本

『D坂の殺人事件』 江戸川乱歩/著 東京創元社(創元推理文庫)(B1)

『東京人 2021年6月号』 特集:「江戸東京探偵散歩」(雑誌棚No.13)

『東京遊歩東京乱歩-文士の居た町を歩く-』  
磯田和一/文と絵 河出書房新社  
(中央・目白所蔵)